

教員コメント

科目名	11001	ベーシック数理 I
-----	-------	-----------

①自己評価

ベーシック数理 I では、社会で生じる問題解決において必要となる判断推理と数的処理の中から、その基礎となる論理と手法を理解することを目的とした。具体的には、日常言語の推論で中心となる条件文の論理、問題状況に含まれる情報をクロス表で整理する方法、対応関係の判断推理、整数の性質である約数・倍数および剰余の利用、数列の問題解決への活用などである。授業は問題演習形式を主体にした方法で実施し、できるだけ予備知識を必要としないで、直接に取り組める問題でありながら、判断推理と数的処理の数理を学習するのに適切な問題を提示するように試みた。毎回到必修課題を用意し、提出を義務付けた。出席率が高かったのは、このような義務付けの効果もあったのではないと思われる。單元ごとの区切りには、学生が自分で作成した必修課題の解答を見ながら、確認テストを実施して成績評価の基準とした。アンケート（8）「理解度を確認しながら授業を進めたか」の結果を見ても、この方法は有効であったと考えている。

②評価に対する教員の思い

演習用の問題は、できるだけ予備知識を必要としないで、直接に取り組める問題でありながら、判断推理と数的処理の数理を学習するのに適切な問題を作成し、順序も易から難へと工夫したつもりであったが、アンケート（5）「授業の難易度は適切か」に対し、「かなり難しい」「やや難しい」への回答が大半を占めている点は、今後の検討事項であると認識した。「難しさ」には、さまざまな要因があると思われるが、各単元で目標とする水準を現在より下げることが不適切と考えている。したがって、より納得のいく説明を工夫するか、進度を遅らせるか、授業中に復習の要素を多くして反復をするか。いずれにしても、何らかの対策を必要であろう。アンケート（10）「私語が多いか」に対し、「やや多い」という回答が70%あり、アンケート（11）「私語対策をしているか」に対し、「よくしている」という回答が70%であった。対策といっても基本的には、口頭で適宜に注意をするというものであるが、不十分であると感じている学生が多いということになる。私語対策のために言葉を荒げることで生じる感情的な摩擦が、授業に逆効果となることもある。私語対策のためになんらかの強制力を行使することで、授業に参加しなくなる学生もいる。いい按配を考量して、一定の注意喚起をしながら、学生の自覚を待つということであろうか。

③後期に向けての改善内容と方策

後期のベーシック数理 II では、社会で生じる問題解決に必要な数量化の方法を理解する準備として、ベーシックな数理の計算力と思考力を習得することを目的とする。したがって、ベーシック数理 I よりも、中学・高校で学習したなじみの問題が多くなると思うので、感覚的な「授業の難度」は緩和されるのではないかと予想している。いずれにしても、学生の反応を見ながら、より納得のいく説明を工夫し、授業中の復習の要素を多くする構成をとるつもりである。アンケート（12）「私語は多いか」に対し、70%が多いと回答している点であるが、単に口頭で注意を促すのではなく、上述のように集中できる適切な問題の提示によって、「私語対策」とすることが理想であろう。

教員コメント

科目名	11002	ベーシック数理 I
-----	-------	-----------

①自己評価

アンケートは、学生側の意欲等に関する項目、担当者側の授業に関する項目からなっている。学生側の意欲は、彼らの出席状況（1）、授業に臨んでの工夫（2）、受講意欲（3）にみられるが、かれらは比較的高い意欲を持って授業に臨んでいることがわかる。問題は、こうした学生の意欲に応え、学生の力を十分に引き出しうる授業を実施されているかどうかである。端的にわかるのは、総合的な評価（12）であるが、悪いものとはいえない。ただし、説明の分かりやすさ（6）、話の聞き取りやすさ（7）の程度に比べて、理解度の確認（8）や難易度の調整（5）が、担当者として心掛けてはいるにもかかわらず、十分に学生に伝わっておらず、工夫が必要と考えられる。

②評価に対する教員の思い

学生は一面で、授業への比較的高い意欲を示していながら、他面で私語が多い（10）など態度に問題がある。注意等の私語対策にも限度があり、大学では、受講マナーについては紳士協定的に守られなければ、授業の中身が成り立たない。学ぶことを強制される高校までとは違い、大学では自主性が重視される。大学で得た学習の自主性は、将来的にきわめて有用な習慣なので、一部の学生には、是非ともこれまでの受け身的な意識を変えていただきたいと思う。

③後期に向けての改善内容と方策

すでに、後期授業が開始されているが、私語の状況を含めた学生の受講態度は良くなってきており、授業をやりやすい環境にある。前期授業では、問題の解法を切り分けることなく提示してきたが、後期では、前回授業の復習・コメント、基本概念の解説と定着の徹底、例題の解法の提示、演習問題の自力解決というように、授業内容を区切り授業を展開するようにしたい。また演習問題の回収により、総論的・全体的な学習状況の把握にとどまらず、個別的なアドバイスにも努めたい。

教員コメント

科目名	11050	デッサン
-----	-------	------

①自己評価

受講生の受講態度は昨年に比べて、やや集中力が欠けているように思え、今年度の授業評価にはばらつきがあると予想していましたが、(8)理解度を確認しながらの%がある程度進めているが、83%で受講生が授業形態をよく理解している。また(10)教員の熱意を感じるが100%の、高評価である。しかし、(11)の私語対策にかんして、授業オリエンテーション時にグループ学習形態で授業を進めることを説明し、その形態で授業を進めたが、グループラーニングがうまく機能しなかったこと、インタラクティブな学習環境作りの説明が不十分であり、グループラーニングについて、インタラクティブな授業について十分な説明が必要と考える。

②評価に対する教員の思い

受講生とグループ学習形態、インタラクティブな授業を行っていますが、グループ学習の中で特に、受講生とのコミュニケーションを重要視したことが、受講生の満足度は良かったが、授業の到達目標の内容に到達したかは?不十分と判断している。受講生のより自主性、積極性の活性化を期待したい。こちらも、受講生のポテンシャルを引き出したい。

③後期に向けての改善内容と方策

グループ学習形態をより活性化し、出来る限り受講生とコミュニケーションをとることで授業到達目標を達成すること。インタラクティブな授業形態と活気のある授業環境を目指す。

教員コメント

科目名	12002	日本語(語彙・読解) I
-----	-------	--------------

①自己評価

アンケートの結果はおおむね想定どおりです。出席率、学生の積極性、授業態度なども良く、ある程度満足できるものです。授業の準備は事前にかなり入念にしていますので、そのあたりは学生に伝わっていると思います。しかし、授業のボリュームについてはかなり多いと回答した学生もおり、私自身も、決められた時間内で、毎回目標を達成するのにやや時間不足を感じています。そのため、ともすると、説明が不十分になってしまうことも否めません。一方的な授業ではなく、学生と対話しながらレベルアップを図りたいと授業を進めています。時間の範囲内での困難さを感じています。自学学習に関しては、彼らが留学生であり、アルバイトも生活のための重要な要素になっているので、home workをできるだけ少なくしています。しかし、自学学習については大学生としてももう少し増やしてもよいのではないかと考えています。

②評価に対する教員の思い

まず、「学習意欲があまり刺激されない」と回答した学生へは、「文字・語彙」は、できるだけ使えるもの、使用頻度の高いもの、また、大学生として知っておいてほしいものを提示するようにしていますが、シラバスに沿って提示していかなければならないので、取捨選択が難しいところです。「工夫してもらいたいと思うもの・・・板書」という回答についてわかりやすい、丁寧な板書を心掛けてはいるのですが、それをすると板書に時間を割き学生に背中を向けることになってしまうので、「速くて、丁寧、」は、なかなか両立できなくて難しいところです。視覚的にはもう一工夫したいと思います。「話題、例示の妥当性」については、学生がよりアカデミックな話題や例示を求めているのか、もしくは、もっと身近なわかりやすいものを求めているのかそのあたりのことを知りたいです。「ビデオ・DVDなどの視聴」は私も利用したいと思っていますが、教室内に設備がありません。大学側に依頼してみたいと思います。「Power Pint」「カラープリント」などは設備上、無理なような気がします。学生の皆さんには、さらに積極的に授業に参加し、発話をして、知識だけではなく、生きた日本語を学んでほしいと思います。

③後期に向けての改善内容と方策

「読解」に関しては、後期の授業で「新聞記事、新書、時事」なども取り扱って、より学習意欲が刺激されるものにしていきたいと考えています。その中で、理解語彙、使用語彙の拡張を図りたいと思います。そして、それらが日本語の学習のみならず、日本の文化や歴史、生活への理解を深めることに役立つと考えます。ボリュームに関しては、やはり自学学習を増やすことで、習熟度向上に結び付けたいと思っています。また、学生とさらに交流を図ることで、ニーズに合ったより適切な授業展開がなされると思います。

2010年度

教員コメント

科目名 | 12005 | 日本語コミュニケーション I

①自己評価

3 「この授業に対する受講態度はどうですか」で、「かなり意欲がある」と「まあまあ意欲がある」の合計が85.7% 6 「この授業の先生の説明は分かりやすいですか」で、「かなり分かりやすい」と「やや分かりやすい」の合計が92.8% 12 「この授業は総合的に見て満足 of いくものですか」で、「かなり満足している」と「やや満足している」の合計が92.8% これらの結果から、概ね成功していたと評価して大過ないと判断する。

②評価に対する教員の思い

自由記述欄で、「私語をしている者に注意してほしい」があったが、全体アンケートで「この授業の先生は、私語対策をしていますか」の回答の「よくしている」と「ある程度している」の合計が78.5%に達している点から見て、学生諸君の自覚を促したい。

③後期に向けての改善内容と方策

後期不開講

教員コメント

科目名 | 13001 | ITリテラシー I

①自己評価

学生の満足度は、理解し易い、聞き易い、学史の理解を確認している、教員の授業に対する熱意を感じる、総合的に満足がゆく、に対して、ほぼ80%の数値を見ることができるので、評価されていると解釈する。少し気になるのは、分かり易いと、かなり分かり易いを合計してほぼ100%となるにもかかわらず、難易度のところで、やや難しいが55%となっていることであろう。これには、テキストの進捗の問題があるように分析している。今の学生は、高等学校をはじめとする大学以前の段階で、かなりITについての知識があるとの立場から、きわめて初歩的なことはサッと済ませた。そのため、予想外に授業は進んだのであるが、最後のテストを点検して、学生の理解度にはバラツキがあるのを発見した。学生の本の一部の中にだが、理解が送れている学生が、やや難しいと回答していると判断する。

②評価に対する教員の思い

③後期に向けての改善内容と方策

一番気になるのは、私語がやや多いが42%、教員がそれに対する対策をよくしているが57%あるにもかかわらずである。この授業は、少人数の演習形式であるから、水を打ったような静寂な教室ではないはずだ。ある程度にぎやかなのは当然である。私語と感ずるには、それぞれの学生にとって、他の学生の私語が、自分たちとは異なる世界のものだと感ずるせいであろう。しかし、ITリテラシーのような授業では、各自の進行はそれぞれかなり異なるものとなり、場合によっては速い段階で終了するものも出る。多様な学生に対して、多様な課題を準備する工夫を考える必要がある。今ひとつは、ITリテラシーのような授業は、思い切って少人数で行なう必要があると判断している。学生の実態からすると、最大でも20名を超えない程の規模を模索するべきではないか。学生の実態に差があるのが大きな原因である。

2010年度

教員コメント

科目名 | 13002 | 経済入門

①自己評価

6 「この授業の先生の説明は分かりやすいですか」で、「かなり分かりやすい」が17.9%、「やや分かりやすい」が56.4%で、計74.3% 12 「この授業は総合的に見て満足のものですか」で、「かなり満足している」が15.8% 「やや満足している」が57.9%で、計73.7% これらの結果から、概ね成功していたと判断して大過ないと判断する。

②評価に対する教員の思い

11 「この授業の先生は、私語対策をしていますか」で、「よくしている」が21.1%、「ある程度している」が47.4%で、計68.5%に達しているのに、10 「この授業は、私語が多いですか」で、「かなり多い」が18.4%に上っている。学生諸君の自覚を促したい。

③後期に向けての改善内容と方策

後期不開講

2010年度

教員コメント

科目名	13003	コーティング論
-----	-------	---------

①自己評価

授業開始当初は人数も多く520教室でも良かったが、徐々に人数が減少し大きな教室が広々と感じるようになった。受講生は大きな教室にまばらに座り、やりにくい環境であった。私語についても、小さな声のものには気づかなかつたかもしれない。昨年の改善要望から、今年度は資料を配布することにしたが、人数が減少し残部が増え、紙の無駄遣いであった。少し改善の余地があった。出席リーダーを使用することによって、学生の名前が覚えられず、顔との一致が困難で、注意をするときに名前を呼んで注意するのとそうでないのとでは、効果が違った。板書の字は出来るだけ丁寧に書いた。

②評価に対する教員の思い

授業内容が、学生にとっては難しいようだ。次年度は、このことを踏まえておかなければならない。私語は、根気よく注意を行い、辞めない場合は退室も止むを得ないかもしれない。

③後期に向けての改善内容と方策

資料の準備において、紙の無駄遣いに注意する。受講生の人数に応じて、着席の場所を指定し、視野を狭めて管理しやすくする。出席は、一人ひとり呼名し、顔を覚えて名前と呼べるようにする。

教員コメント

科目名	13055	色彩演習
-----	-------	------

①自己評価

(12) の満足度は概ね、受講生は満足しているとの%である。グループレARNINGのこちらの授業目的をよく、受講生が理解している。シラバスの説明は授業オリエンテーションでその重要性を十分に説明しているが、理解していない受講生もあり、今後のシラバスの重要性を説明していきたい。

②評価に対する教員の思い

今年度のこの授業の評価は前年度の反省を元に、個人指導、グループレARNING作りに改善努力をしたことが、受講生に評価されたと推測するが、授業のレベルアップをしていきたいが、上げると受講生の反感を招くことを懸念される。今後の課題としたい。受講生の向上心を期待したいところである。

③後期に向けての改善内容と方策

授業オリエンテーションでシラバスの重要性をしっかりと説明する。グループレARNINGをより構築する。インタラクティブな授業形態と学習環境を目指す。

2010年度

教員コメント

科目名 | 14002 | 健康スポーツ演習

①自己評価

野球部1年生が多く、前半の実技をしたときは、まだ良かったが、後半の教室での座学は私語が多く、やかましい授業であった。注意をしても一瞬で、何回注意しても収まることは1回もなかった。人数があまり多くないので、名前を呼んで授業ができることは、コミュニケーションがとれてよかった。ノートを持ってきることなく、配布した資料も授業が終われば、机上に残したまま帰るなど、大変な授業であった。授業に対する意欲や熱意の依然の問題があった。

②評価に対する教員の思い

「私語対策はしていますか。」「よくしている。」「これだけしゃべったら注意もするやろ!」と言いたい。しゃべっている本人たちに「よくしている」といわれてもどうかと思う。

③後期に向けての改善内容と方策

私語に対する注意は、根気よく続ける。やる気のある学生の邪魔はさせない。

教員コメント

科目名 | 14003 | 地球と環境

①自己評価

本講義「地球と環境」の履修登録者58名のうち、出席率50%以上が8割強、75%以上が7割弱であった。授業評価アンケートの回答者34名は履修登録者の約6割であり、アンケート結果には、出席率のよい学生の意見が強く反映されていると考えられる。本講義では、「自然災害とその対策」をテーマとして地震や台風など日本において体験する可能性のある災害を取り上げた。その際、映像や図表を用いて視覚的に理解できるように心がけたが、自然現象のメカニズムを説明するにあたって数式や化学式を利用したためか、「やや難しい」を含め「(問5)授業の難易度が高い」44%と、講義内容を難解に感じた受講生が半数弱を占めた。ただし、「(問6)説明がわかりやすい」85%との評価もある。私語対策については、適宜対応するように心がけたものの、静寂な環境を保証するまでにいたっていないことが問題として残る。

②評価に対する教員の思い

「(問3)受講意欲がある」学生が82%と多く、授業をする立場として、受講生の側から授業しやすい環境を提供してもらえたことはありがたいことであった。「(問8)学生の理解度を確認しながら授業を進めている」70%との回答であったが、どうしても講義内容を「伝える」ことに専念してしまい、自己評価としては理解度確認が不十分であったと反省している。この点は他の講義科目「地球科学」と同様である。もう少し講義内容を整理し、時間的余裕をもって講義を進めていく必要があると考える。出席率が75%以上の受講生が7割弱おり、極めて出席状況がよい結果となったが、その中には大幅な遅刻者も含まれていることから手放しで喜べる結果ともいえない。講義の冒頭から参加したくなるような授業内容にしていく必要があるだろう。

③後期に向けての改善内容と方策

「(問12)授業に満足している」学生が81%を占めており、配布資料やビデオ教材を取り入れた講義形態については大きな問題はないと考えている。ただし、約半数の受講生が「(問5)授業の難易度が高い」44%と感じたことから、講義内容の選択や伝え方には工夫が必要と判断する。自然現象のメカニズムを説明する際には、物理学や化学の考え方を利用する場合があります。そうした理科科目を受講してこなかった学生にとっては理解しにくい状況であったと思う。可能な限り、数式等を使わず、直感的に理解できるような例示を考える必要がある。また、受講生の理解度確認のため、かつ、受講生の意識を授業に向けることで私語を抑えるため、授業時間内に学生の意見を引き出す仕掛けを用意することも考えていきたい。

教員コメント

科目名 | 14006 | 地方自治論

①自己評価

(1) 授業について「説明は分かり易い」が53%、「話し方は聞き取りやすい」が82.4%となっているが、授業の難易度について「難しい」が76.4%となっており、学生の理解度、習熟度向上のためにも、授業内容の改善が必要である。(2) 学生の受講意欲について「全く意欲がない」が11.8%、授業を理解するための工夫について「何もしていない」が17.6%となっており、学生の勉学意欲を変えるための工夫が必要である。

②評価に対する教員の思い

在県、市町村の地方自治体は、住民福祉の向上と地域の振興のために、様々な行政を実施している。さらに行政改革のための取り組みを推進している。そして、いま、地方分権改革が推進され、地方自治体の役割は、ますます増大している。このような地方自治体の動向については、日々新聞、テレビ等でも報道されている。新聞をよく読んで、極めて身近な存在である地方自治体への関心を強め、直面する課題について考察するようになってほしい。そして、地方自治を勉学する意欲を高めてほしい。授業には、是非、出席してほしい。

③後期に向けての改善内容と方策

(1) 学生の学習意欲を高めるため、(ア) 身近なテーマ、ホットなテーマを教材として活用する。(イ) 地方自治体に出向き、地方自治の実地見学を行う。(2) 学生の理解度を高めるため、(ア) レポートによる意見発表を行う(イ) 学生間のディベートの場を設ける。(ウ) 少人数授業のメリットを活かし、個々の学生と向き合い、対話する。

教員コメント

科目名	14007	マクロ経済学
-----	-------	--------

①自己評価

アンケートは、学生側の意欲等に関する項目、担当者側の授業に関する項目からなっている。学生側の意欲は、彼らの出席状況（1）、授業に臨んでの工夫（2）、受講意欲（3）にみられるが、かれらは比較的高い意欲ないし中程度の意欲を持って授業に臨んでいることがわかる。問題は、こうした学生の意欲に応え、学生の力を十分に引き出しうる授業を実施されているかどうかである。端的にわかるのは、総合的な評価（12）であるが、悪いものとはいえない。ただし、話の聞き取りやすさ（7）の程度に比べて、理解度の確認（8）や難易度の調整（5）説明の分かりやすさ（6）が、担当者として心掛けているにかかわらず、十分に学生に伝わっておらず、工夫が必要と考えられる。

②評価に対する教員の思い

難易度が高いという評価（5）があるけれども、授業内容は標準的なマクロ経済学の内容であり、なかでも基礎的事項と思われる内容にかなりの重点を置いている。かなり難しいから簡単にしてほしいという要望を潜在的に抱いているのであれば、それは適切な要望ではない。学生側には、授業内容のレベルを落とさずに、理解の助けとなる工夫を要望してもらえれば、担当者として意欲的に授業の改善に取り組める。なお、この授業の環境はきわめて良好なものであり、私語対策をほとんどせずに、30回の授業を行うことができた。したがって、担当者の立場からは、私語対策（11）は、ほとんどする必要がない、したがってほとんどしていないという評価になるかと思われるがどうか。

③後期に向けての改善内容と方策

難解な理論をいかに分かりやすく説明するかが、授業改善の最大のポイントでないかと考えられる。そのために、複数ある説明方法の中でどれがわかりやすいものであるかの吟味、数値例や現実の経済現象の例示、アナロジーなどのいわゆる授業の道具を、ストックしていく必要がある。また学生の理解度（何がわかっており、どこで躓いているかなど）を、定期的な小テストで把握し、それらを学生にフィードバックしていく方法も有効ではないかと考えている。

2010年度

教員コメント

科目名	14008	民事訴訟法
-----	-------	-------

①自己評価

民事訴訟法の授業は、法学部の学生でも受講者が少ない科目である。にもかかわらず、受講者の大半はビジネス学部の学生で、しかも、29回も講義するのであるから、講義の準備は、すこぶる大変であった。工夫はしたがやや分かりにくいとの評価は当然であろう。今後、法学部の学生に対する講義は必要がなくなるので、ビジネス学部には「民事裁判入門」といったもので、15回くらいの講義で十分であると思われる。

②評価に対する教員の思い

③後期に向けての改善内容と方策

2010年度

教員コメント

科目名 | 21001 | 英語コミュニケーション I

①自己評価

全体的なアンケート結果として大体予想通りという感じであり、項目の多くについてはプラスに近い評価であったように思われるが、英語の基礎的な文法事項をほぼ1からスタートし進めていくような内容にも関わらず、半数を超える学生がかなり難しい、やや難しいと答えているのは大きな問題だと思った。そして私語の問題も例年よりも深刻化しているのがとても心配な点であった。

②評価に対する教員の思い

全く基本的なことではあるが、受講生は毎時間テキストを忘れずに持参してきてほしい。

③後期に向けての改善内容と方策

ここ最近の本学の学生の英語力の二極化あるいは全体としての低下、そしてそれによる学習意欲の低下、受講態度の悪化、特に今年度の私語の多さには大きな懸念を覚えずにはいられないと感じた。火曜のクラスでは1限目ということもあり、スタートでの集まりも悪い一方、木曜4限目のクラスはさすがに遅刻者もめったになく出席率もいいが、学生間の学力差が顕著で対応が難しく、ずば抜けて点数の高い学生もいれば、毎時間きめ細かく板書や説明をしているにも関わらず全くお手上げで、再試験でやっと合格という学生もいた。こうした多様な学生が同じクラスの中に存在することは確かに問題であり、学生に対する教員自身のより厳格な対応がますます必要になっていることはもちろんであるが、他方なるべく個々の学力に応じた形に近い授業を提供することも求められているような気がする。またそうした対応が私語の減少にも多少はつながっていけばと思う。後期はもう無理なので来年度以降の事になってしまうが、学力に応じた新たなクラス分けの必要性も無視できないところまで来ているのかもしれない。

教員コメント

科目名 | 22050 | 英語(講読)(前)

①自己評価

この授業は受講者が全部で10名のクラスで、すべて情報学部の学生であり、情報学部では例年通りシンプルな形式のプレースメントテストをした結果、一応上級の方のクラスということもあり、私が担当している授業の中では学生は最も静かで出席率も非常に良く、授業そのものも最もやりやすいクラスであった。従ってアンケート結果もおおむね良かったと思うが、授業の難易度については難しいという声が多かった点が気になった。しかし大多数の学生が、私の説明は分かりやすいと答えていることから、難易度についての問題はこれでかなりカバーできているのではないかと思う。ただ一部にはかなり難しいと答えている学生もいて、それがそのまま前期試験もまるでだめという結果になってしまっていたようである。

②評価に対する教員の思い

前期試験で不合格になってしまった学生に言いたい。出席についてはほとんど問題はなかったが、後期からはもう少し気合を入れて真剣に、そしてもっと危機感を持って受講してほしい。ちゃんとその気になれば、これしきの程度のもので理解できないはずはいのだから。

③後期に向けての改善内容と方策

①でも述べたように、上級クラスと思っていたところが、一部にはかなり難しいと答えている学生もいて、試験の結果にもそれがそのまま反映されてしまっていたようであり、4月に実施したプレースメントテストが学生の英語力の差を必ずしもすべて正確に把握したクラス分けに100パーセントなっているのかどうか疑問を覚えた。とにかく後期ではこうした学生に対しては特にもう一度基礎からきめ細かい指導を心がけていくことが欠かせないことは言うまでもないだろう。他方、学力に応じた正確なクラス分けの難しさも同時に痛感させられた。これはむしろ来年度以降に実施するかもしれない新たなプレースメントテストにも関わってくる問題ではあるが、教材の難易度、授業のスピードなども含め個々の学生の学力をより正確に把握したクラスそして授業の有り方が今後これまで以上に問われていくものと思われる。

教員コメント

科目名 | 22054 | 映像技術 I

①自己評価

授業は全く同じ内容で行っているので、火・木の2クラスをまとめて評価する。難易度に関する項目で、2年生が多数の火曜日は「かなり」「やや」難しいが80.6%で、木曜が33.3%と相違点があったが、おおむね同様の解答結果が現れている。昨年度と比較して出席率が良かった。また「かなり・まあまあ受講意欲がある」が83.3%と94.1%と高く、「シラバスがかなり・まあまあ役立った」は61.1%、87.6%とシラバスを読んでいる。「難易度が難しい」と感じている受講者にも目を向けると昨年度と比較して大きく変化している。原因のひとつは留学生が加わったことが大きく影響しているように思う。そのなかで質問⑥・⑦の言葉が聞き取れること、⑧・⑨の理解度や意欲を感じるなどでいい評価があり、授業内容を理解し成績や結果にも結びついたと思われる。

②評価に対する教員の思い

出席率が高くなったことや難易度が高いと感じながらも成績が良かったことは真剣に受講していることの現れと思われる。授業を理解するための工夫で「質問する」が結構あるが、実際は件数ほど多くなかった。その気持ちの現れであれば、質問や対話の時間をより多く設けていく。時間的余裕があれば、議論ができるまで内容が深められたら望ましい。

③後期に向けての改善内容と方策

専門性の高い授業でもあり、できるだけ解りやすく説明し、理解度をより確認しながら進めることを心がけていく。後期は創作力が重要になり、自主的な思考や活動が必要になる。これらを導き、より興味があれば課外活動などでもサポートしたい。

教員コメント

科目名	22056	情報と音楽 I
-----	-------	---------

①自己評価

授業中に受ける感触とほぼ同じ結果であり、ほとんどの項目が想定内です。自身でも例年より熱の入った授業が展開できたと感じています。(9)(10)項の私語及び対策については、科目の性質上、音を出すという授業なので、ついつい感動したり、驚いたりして声を発してしまう人がいたようには感じています。しかしながら、その点は私語というより授業に関連している部分なので、よしとしてまいりました。その他の類の私語につきましては、少々デリケートな部分もありコメントを控えさせていただきます。ただ、迷惑に感じている人がいる事がわかりました。後期に向けては、私語の内容を踏まえながらではありますが、もう少し積極的に注意を促します。

②評価に対する教員の思い

今年度の受講生は、ほんとうに意欲的に本科目に取り組んでいます。理解度も、かなり高いといえます。従いまして、今後はさらなるスキルアップを目指して、少し実践的な内容に方向修正をしようと考えています。具体的の方策としては③項に記します。皆さんの高い学習意欲に応えるべくさらに努力してまいります。

③後期に向けての改善内容と方策

後期は実技の実践の場を増やすとともに、もう少し踏み込んだ授業内容に修正をします。具体的には、編曲の分野とオーディオデータについて、可能な限り踏み込んだ授業内容に方向修正を行います。特に今年度は、MIDI関連への就職及び進出を考えている受講者もいることから、それを応援するための学内外での進路相談も積極的に行いたいと思います。

2010年度

教員コメント

科目名 | 22057 | 情報セキュリティ

①自己評価

講義の内容および運営に関するアンケート項目(項目3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 11, 12)については、平均点が軒並み高く素直に評価してよいのか悩む。とはいえ、次年度も現状維持できるよう努めたい。私語対策(項目10, 11)については当初の目論見どおり成功した。当該講義では、出席態度(平常点)の代わりとして、妨害行為に対する減点法を導入した。受講する学生には脅威に感じたかもしれないが、大多数の学生が「私語対策をよくしている」という評価をしているので、対策としては成功したと結論づけてよいだろう。

②評価に対する教員の思い

説明方法や話し方に関するアンケート項目(項目6, 7)において少数意見ではあるが、分かりにくい、聞き取りにくいという結果を得た。私自身もっとよい説明方法があったのではないかと感じているので、この結果を素直に受け取り、次年度の講義では反映させたい。

③後期に向けての改善内容と方策

多くの学生が当該講義に積極的に出席し、高い評価をしてくれたことを受け、次年度も現状維持を努めるよう努力したい。説明方法や話し方について、一方的な説明ではなく、学生と考える時間を設けることが必要だと考えている。一方的な説明を減らすことは、講義担当者にとってみれば時間制限に焦ることなく講義運営ができると思われる。また、学生にとってみれば、連想記憶により講義内容が一層理解できるため、習熟度向上につながると思われる。

教員コメント

科目名 | 23001 | ITリテラシー I

①自己評価

情報機器に触れた経験のない学生はほとんどいないが、平素からIT機器に触れる機会の多い者とそうでない者の間で知識・スキルのレベルには大きなバラツキがみられる。そのため、今年度はタイピングテストを行い、各クラス内のバラつきを少なくするようにした。授業の難易度が高いという回答からわかるように、私が担当したクラスは、平素からIT機器に触れる機会が比較的少ないと思われる学生が多数を占めている。このため、演習課題に取り組んでもらう際にも机間巡回を行って、少しでも操作に戸惑う様子が見られる学生にはこまめに声をかけるよう心がけた。授業の説明の分かりやすさ・理解度を確認しながらの授業進行・授業に対する熱意や意欲といった問に対する回答結果は、こうした部分が表れたものと考えられる。クラス内のバラつきを抑制するクラス分けを行ったとはいえ、完全に同じ水準の学生ばかりがそろわけるのではなく、同じ課題に取り組む場合であっても、簡単な説明で足りる学生もいれば、横に付き添って補助する必要の学生も存在する。後者に時間を割けば前者が退屈して私語を始め、前者に進度を合わせると後者が諦めて私語を始めるなど、授業運営に苦勞を強いられた。実際、受講生も私語が多いと回答している。これに対し、可能な限り、こまめに声掛けを行うとともに、学生の質問や操作補助の求めにも丁寧に対応するよう心がけることで、授業へ意識をつなぎとめる努力を行った。また、自身の課題達成状況がわからず、成績評価に対する不安を抱えたまま、惰性的に課題の提出を怠ったり欠席を続ける学生が多いことから、授業後半では学習管理システムを導入し、自身の課題達成状況と当該時点における評価を確認できるようにした。これが効果を奏したのか、以後、課題提出状況と出席状況、および授業への取り組み態度もずいぶん改善したように思う。ただし授業満足度は評価が分かれることから改善が必要だと感じている。

②評価に対する教員の思い

③後期に向けての改善内容と方策

評価方法を明確にするとともに、当該時点の学修状況を各自で認識できるよう、早い段階から学習支援システムを取り入れたいと考えている。何を為さねばならないのか、為した成果に対する評価はいかほどのものかということを学生自身が認識することによって、授業に取り組む意識も随分と変化すると考えるためである。また、情報機器に触れた経験のない学生は減少したとはいえ、皆無ではない。そうした学生は、大勢の中で行われる演習のスピードについていくことができず、取り残されてしまう。こうした学生に対してマンツーマンに近い体制で授業を行うことができるよう、再度、クラス分けを行うことで、より、学生のニーズに合った授業運営を行っていきたいと考えている。

教員コメント

科目名	23002	インターネット英語 I
-----	-------	-------------

①自己評価

全体的なアンケート結果としては大体予想通りであったと思うが、かなり難しい、やや難しいという声が半数強を占めていたのは反省すべき点かもしれない。基礎学力を重視した教材として作られて英語の電子メールの文例のみならず、インターネット英語という科目名である以上、実際にインターネット上で流れている、鳩山と小沢のダブル辞任について書いた英字新聞の一部を前期終盤の数回の授業ではあるが取り上げたことがやや大きく響いているものと思われる。そして例年この授業はなぜか受講者数が多いので、それ分私語も多いことも覚悟はしてはいたが、特に今年度は困ったことに予想を超えて例年になく私語が多かったことは大きな問題だと思う。

②評価に対する教員の思い

当たり前のことではあるが、配布したプリント教材により授業を進めている以上、受講生は毎時間それを忘れずに持参し受講してもらいたいものである。

③後期に向けての改善内容と方策

本学の学生の英語力、学習意欲の二極化、そして全体としての低下はかなり深刻化しているように感じた。一部の留学生と一部の情報学部生は前列で熱心に受講しているのに対し、ビジネス学部の中の相当数の学生についてはどうしようもないという日も少なくなかった。①でも述べたように、比較的易しいと思われる英文で内容も連日のニュースで誰もが知っているようなポピュラーなものを扱ったインターネット上の英字新聞のごく一部を抜粋し取り上げてみたが、やはり彼らの多くの実際の英語力からはかけ離れていたのかもしれない、またそれがかなり難しい、やや難しいという声や私語の多さの一因となっていたとすれば、それは反省すべき点かもしれない。しかしあまり易しいことばかりやっていると世間並みの英語力には程遠いレベルで終わってしまうだろうし、またそれでは困るので、後期もそういったものを多少は交えて授業を進めていくつもりであり、それが彼らのためにもなっていくはずである。確かに多くの学生がかなり難しい、やや難しいと答えているとは言え、現にそれとほぼ同数の学生が、私の説明は分かりやすいと答えてくれているのも事実であるから、後期も基本的にはこの方針で進めていくつもりである。私語対策についてはなかなか案なしといったところである。確かにこれまでは出席率が悪くなければ、不合格とするケースは比較的少なかったし、試験問題についても前もってかなりヒントを与えていたことが、学生を安易な気持ちにさせていた面もあったかもしれない。従って少しでもまじめに受講させるためには成績評価をこれまで以上に厳格に行なっていくことがまず第一歩ではないかと思う。

教員コメント

科目名 | 23016 | 経済学史

①自己評価

もともと出席重視を強調しているので、毎回出席の数値が高いのは実感できる。定まった学生は、最前列に常に陣取っているのを確認している。各設問のアに相当する項目がほとんど70%前後になっているのは、学生による授業評価としては妥当なところではないかと判断する。細かく見ると、かなり難しい69%と、かなり分かり易い81%が併存するのをどう判断するかが気になるところである。今のところ、最前列に陣取る学生には、難しいけれど興味が湧く、後列に着席している学生には、授業参加感が薄いと解釈する。

②評価に対する教員の思い

③後期に向けての改善内容と方策

聞き易いとしながら、自由記述に気になる点もある。パワーポイントに対する苦情である。パワーポイントの字が小さい、パワーポイントの進行が速い、など教員のパワーポイント習熟に関する点は、今後技量を上昇すべく努力したい。懸案の私語対策、であるが、受講者数から判断して、教室が混乱状態にあるとは判断し難い。私語が多いと言うのが42%あるが、学生自身が述べているように、それは学生が「ボソボソしゃべっているだけ」で、授業妨害などではない。むしろ教室の規模と設備のトレードオフが原因の一端ではないか。視聴覚機器がある部屋が、概して大教室なのに対して、実際の受講者数がそう多くない場合、どうしても授業が拡散する。パワーポイントの効果的な運用、これは努力する、受講者数にマッチした教室で講義を行うことに努める、この2点を反省点とする。

教員コメント

科目名	23050	プログラミング基礎
-----	-------	-----------

①自己評価

本講義は情報学部では切っても切り離すことのできないプログラミングについての基本的な知識を取得する講義であった。そのため講義内容が広範囲に渡りアンケート結果では70%の学生が「やや難しい」と感じていた。しかし、期末テストの結果と「講義の説明は分かりやすかった」というアンケート結果が約85%という点から講義内容としては問題がなかったといえる。ただし、1年生の知識習得の観点から考えて講義の理解度が100%になるように講義の改善を図っていく必要がある。次に授業環境だが、やはり人数が多いクラスでは私語が多い・やや多いと感じている学生がアンケート結果から50%いた。しかし、私語対策をしている・ある程度していると回答した学生が70%であり評価できる程度の私語対策はとれていたと考えられる。私語対策についてはよりいっそう励んでいく。

②評価に対する教員の思い

③後期に向けての改善内容と方策

コンピュータの低価格化が進み多くの人々がコンピュータを持つことにより、コンピュータの利用要求は対数的に増えてきている。それに伴いプログラミングで学ばないといけないことが年々多くなってきているため講義内容が多くなり、わかりかけたところで次の講義内容に移ってしまうなど講義のスピードが速い点についての意見が何点か記述されていた。今年度の講義ではプログラミングの種類によって利用分野が違う事と一般社会で最も多く利用されているHTML、C、JAVAのプログラミングを簡単に体験することを行ったが、来年度からは、もう少し内容を絞って学生がゆっくりと学んでいける講義にしていく。また、私語の多さは講義中にプログラミングを行う際、学生からの質問に対して回答を行うと授業が中断することに原因があると思われる。よって40人を超える講義においては可能ならばTAを設け質疑応答の迅速化と授業の連続性を保ちたいと考える。

教員コメント

科目名 | 23053 | 映像メディア論

①自己評価

このデータだけで見ると、特に自己評価することもないが、自分自身で振り返ると、学生に対して、授業の内容・手法にはもう少し改善せねばならないこともある。それは、講義だが、教える、伝える、気づかせるだけでなく、学生と一緒に議論したり、考えたりする場を授業の中で持つことだ。しかし問いかけてもなかなか反応の返ってこない学生が多いだけに、何とか彼らを活性化させ、いまま少し授業を深める必要がある。

②評価に対する教員の思い

教員へ、もう少しアタックしてほしい。私語については、授業の最初の頃と半ばに注意、喚起したが、以降は比較的少なかったため、その後は特に注意はしていない。静かな学生の中には、熱心な学生と、逆の居眠りも存在しているのは認識している。前項にも記したが、教室をいい意味で活性化させたい。

③後期に向けての改善内容と方策

幾分網羅的な内容になっている授業だが、時間配分も考えながら、学生たちとより質疑や議論が行き交うものにしたい。なぜ、どうして、僕はこう考える・・・等、一緒に考えられる授業にし、一人一人のものの見方や考え方を触発させ社会へも目を開かせたいと思う。

教員コメント

科目名 | 24007 | 商取引法

①自己評価

回答者は全部出席または3分の2出席となっている。シラバスを全然読まなかったとする学生が4割近くいるのが気になるところである。授業中には比較的熱心に聞く学生とそうでない学生が2極化しており、授業を聞いていない者の受講態度は必ずしもよいとはいえない。他の学生から苦情が出ており何とかしてほしいということである。私語対策としてはその都度注意するほかなく、注意したときは静かであるがそのうちまたしゃべりだす。これの繰り返しではある。約半数の学生が私語が多いと感じている。

②評価に対する教員の思い

アンケートは全体的に積極的評価である。学生は、シラバスで各回の授業内容をあらかじめ確認し、自学自習することにより授業に対する準備をするのが望ましい。授業を理解するためには、基本的に予習と復習はもちろんのこと、授業中は教師の話をしっかり聞いてノートを取るべきである。講義は難しいがわかりやすいと回答する者の割合が約4分の3あるから、この点は問題ない。ただし残り4分の1がわかりにくいとする学生であり、回答の全体的な数値からすると勉学に対する努力が必要であると思われる。受講意欲も9割近くの者が積極的評価をしており、学生の勉強に対する姿勢を高く評価することができる。

③後期に向けての改善内容と方策

この科目についてレジュメを補助教材として使用することを検討している。私語対策はかなり深刻な問題である。授業中の態度につき相当問題があると思われる学生がいる。これに対して他の学生が悪影響を受けて同様に授業中の態度がよくない方向にいく学生が出てくることもある。自由記述で深刻な苦情を呈する学生がおり何とか対処方法を講じなければならないと感じてはいるが、具体的に対処できていない部分があり今後の課題としたい。

教員コメント

科目名 | 24012 | 原価計算論

①自己評価

原価計算の基礎をできるだけ平易に理解してもらえよう、また、日本商工会議所簿記検定2級の受験を希望する学生に関しては、「工業簿記」の内容をカバーできるよう、テキストについては岡本清・廣本敏郎監修「段階式 日商簿記2級 工業簿記」(税務経理協会)を採用した。理論だけではなく、できるだけ多くの問題を解くことができるよう、演習中心の授業展開を意図して、詳細な授業用のプリントを準備し、プリントを中心に授業を展開した。授業の進行については全面的にパワーポイントを採用してわかりやすく学習できるよう工夫をこらした。ほとんどの学生は簿記・会計に関する知識のない学生であり、簿記の基礎部分の指導も加えながら説明をした結果、意欲をもって学習する学生もみられたが、反面、内容を消化しきれない学生もいたことについては残念であり、今後の検討課題としたい。

②評価に対する教員の思い

全体的に出席状況はよく、真面目な学生が多いように感じた。学習面では、誰にでも理解できるように平易な内容の資料とパワーポイントを作成して、指導したが、学生諸君の中には、初めから難しいと拒否的で、頑張っって学習しようという姿勢がみられない学生もいたことは残念であった。しかし、学習を離れれば人柄もよく感じのよい学生ばかりであった。最初から諦めるのではなく、難しいと思うことにも積極的にチャレンジする姿勢をもってほしいものです。学生の中には、商業高校で簿記を学習し「日商簿記検定2級」の資格を有している者もあり、1級の内容を学習できると思っていたとのことであったが、すでに学習した内容についても、また新しく学習した内容についても、真面目に取り組んでくれたことに感謝しています。

③後期に向けての改善内容と方策

後期担当の「管理会計論」については、テキストとして、公認会計士試験 短答式試験対策シリーズ「管理会計論 ベーシック問題集」(TAC出版)を採用し、難しいとは思いますが公認会計士試験の短答式の問題を解くことによって、私にもできるという自信を持ってもらえないかと考えている。授業の進行については、前期の授業も考慮し、学生諸君の理解度にあわせて、無理をしないで、時間をかけて講義を進めていきたいと考えている。また、学生諸君にできるかぎり理解してもらえよう、可能な限り平易な資料とパワーポイントの作成に努めている。また、有価証券報告書等を通じて公表されている企業のデータの一部を活用していくことも予定している。

教員コメント

科目名	24050	プログラミング基礎
-----	-------	-----------

①自己評価

本講義は情報学部では切っても切り離すことのできないプログラミングについての基本的な知識を取得する講義であった。そのため講義内容が広範囲に渡りアンケート結果では70%の学生が「やや難しい」と感じていた。しかし、期末テストの結果と「講義の説明は分かりやすかった」というアンケート結果が約85%という点から講義内容としては問題がなかったといえる。ただし、1年生の知識習得の観点から考えて講義の理解度が100%になるように講義の改善を図っていく必要がある。次に授業環境だが、やはり人数が多いクラスでは私語が多い・やや多いと感じている学生がアンケート結果から50%いた。しかし、私語対策をしている・ある程度していると回答した学生が70%であり評価できる程度の私語対策はとれていたと考えられる。私語対策についてはよりいっそう励んでいく。

②評価に対する教員の思い

③後期に向けての改善内容と方策

コンピュータの低価格化が進み多くの人々がコンピュータを持つことにより、コンピュータの利用要求は対数的に増えてきている。それに伴いプログラミングで学ばないといけないことが年々多くなってきているため講義内容が多くなり、わかりかけたところで次の講義内容に移ってしまうなど講義のスピードが速い点についての意見が何点か記述されていた。今年度の講義ではプログラミングの種類によって利用分野が違う事と一般社会で最も多く利用されているHTML、C、JAVAのプログラミングを簡単に体験することを行ったが、来年度からは、もう少し内容を絞って学生がゆっくりと学んでいける講義にしていく。また、私語の多さは講義中にプログラミングを行う際、学生からの質問に対して回答を行うと授業が中断することに原因があると思われる。よって40人を超える講義においては可能ならばTAを設け質疑応答の迅速化と授業の連続性を保ちたいと考える。

教員コメント

科目名	31009	キャリアスキルアップ I
-----	-------	--------------

①自己評価

回答に対して、「4」ないし「3」と答えたものを満足群、「2」もしくは「1」と答えたものを不満足群として自己評価をするならば、90%以上の学生は当科目に対して受講意欲があると答えている。また、教員の話の聴きとりやすさや説明、講義の進め方に対して95%前後の学生が満足と答えている。しかし、回答率が履修人数に対して60%であることから、実際全ての学生が満足しているわけではなく、途中で履修を放棄している学生が40%近くいるということは問題だと考えている。今後、履修意欲の向上を目指して、さらなる学生のニーズの把握と対応を心がけたい。

②評価に対する教員の思い

当科目の難易度に対して、「かなり難しい」「やや難しい」と答えた学生は約50%であった。1つの理論を理解したり、暗記をしたり、問題の正解を導く科目ではなく、当科目は自分の能力を自ら開発するものであり、答えのない問いに向かうことが抽象的で難しいのかもしれない。しかし自由記載で「将来に役立つ授業でよかった」という評価もあるように、このような実感を持つ学生を1人でも増やすために、自分の将来を考えることを投げださないような動機づけを強化していきたい。

③後期に向けての改善内容と方策

授業中の私語に対しては全学的に問題になっていると思われるが、当科目でも例外ではなく、私語が「やや多い」「かなり多い」と答えた学生は約80%を占める。しかし、残り約20%の学生だけが私語をしているとは考えられず、私語をしている本人も「私語が多い」と感じていることになる。これら評価をもとに、後期は、学習環境を整えるために、私語対策を自分たちの問題として、学生らとともに検討したいと考える。

2010年度

教員コメント

科目名 | 32002 | 日本語コミュニケーションⅡ

①自己評価

＜受講意欲＞では「かなり意欲がある」と「ある程度（原文：まあまあ）意欲がある」で100%ということであり、＜総合的満足＞が「かなり満足している」と「ある程度（原文：やや）満足している」で88.9%ということであった。一定の評価が与えられたものと考えている。ただ、＜難易度＞で「かなり難しい」22.2%、「やや難しい」33.3%という点は意外であった（「適当である」が44.4%）。また、＜私語＞で「かなり多い」33.3%、「やや多い」22.2%という点は反省材料であり、＜私語対策＞で「よくしている」と「ある程度している」で100%ではあるが今後も対策を検討していきたい。

②評価に対する教員の思い

特に無し

③後期に向けての改善内容と方策

＜難易度＞については、毎回の漢字テストの難易度が高いことが要因と思われる。本科目の主旨として、特に大学の専門課程で頻繁に使用される漢字に予め慣れておくということがあり、今後はその主旨をより理解してもらえるように授業内で説明したいと考えている。＜私語対策＞については、今後とも有効な方策を検討していきたい。

教員コメント

科目名	32015	中小企業論
-----	-------	-------

①自己評価

授業の難易度に関してですが、「かなり難しい」14.3%、「やや難しい」42.9%となっておりこれらを合わせると57.2%となり多くの方が難しく感じておられ、「適当である」が35.7%となっており、「難しい」と思っておられる学生さんが6割以上と言うことは、想定したレベルが少し高かったのではないかと反省しています。「適当である」と応えていただいた方も4割弱おられるので、「適当である」と思われると」感じておられる方の質を落とさず（大学の講義としてのレベルを保ちながら）、さらに今後は内容も豊富にしながら6割近くの難しいと感じておられる学生さんに理解していただけるように説明をわかりやすくできるように勉強します。

②評価に対する教員の思い

「説明の分かりやすさ」の質問に対して「かなり分かりやすい」71.4%、「やや分かりやすい」21.4%と回答いただいておりますが、これまで以上に理解しやすいタイムリーな具体例を入れながら進めていきたいと思っております。「授業に対する熱意や意欲」では、「かなり感じられる」71.4%、「ある程度感じられる」28.6%という評価をいただいておりますが、この評価をつねにいただけるようにできる限り講義の準備等にも時間を取り、準備した内容を伝えられるように精進します。「私語対策」に関しましては、「私語が多いですか」という質問に対し「かなり多い」3.6%、「やや多い」25.0%と約3割弱の学生さんが私語が多いと感じられているということは問題であると反省します。「この授業の先生は私語対策をしていますか」という質問に対して「よくしている」25.0%、「ある程度している」64.3%と約9割弱の方が私語対策をしていると評価していただいておりますが、中には「まったくしていない」と評価いただいている方が7.1%とおられます。この7.1%の方の不満（声）にできる限り今後は対応させてまいります。これは講義中の勉強に集中できる環境を作れていないということにもつながりますので、この点は十分に反省しさらに私語をする方に対しては注意していく所存です。気になる私語等がありましたら遠慮無く申し出てください。必ず対応いたします。

③後期に向けての改善内容と方策

日本の企業の99.7%が中小企業であり、その企業を研究対象にして講義を進めていますので可能な限り現代企業のタイムリーな話題等を取り入れながら、また学問的レベルを維持しながら説明できるように心がけていきたいと思っております。前述しましたように「中小企業」は企業のほとんどを占めますので中小企業に就職する方、中小企業を起業する方など様々なケースが考えられますが身近な存在であると思っております。就職活動や企業を考えている方に少しでも役立つような講義内容にしたいと思っております。毎年同じようなことを書いてしまうのですが、大切な時間を割いて、高い授業料を支払って受けていただいている講義ですから、学生さんにとり役に立つ内容を提供していけるように努力し精進していきます。担当科目につきましては、責任をもって対応いたしますので説明を聞いても理解できないこと、私語があり聞き取れなかった等ということがあれば、遠慮なく申し出てください。もし「わからない」と感じられていることがあれば何度も何度も説明させてまいりますので遠慮なく申し付け下さい。教員からの一方的な講義ではなく、教員と学生さんとの双方向型の講義・関係を心がけていきたいと思っております。

2010年度

教員コメント

科目名 | 33001 | 日本語コミュニケーション I

①自己評価

6 「この授業の先生の説明は分りやすいですか」で、「かなり分りやすい」が16.7%、「やや分りやすい」が66.7%、計83.4% 1 2 「この授業は総合的に見て満足 of いくものですか」で、「かなり満足している」が33.3%、「やや満足している」が50.0%、計83.3% これらの結果から、概ね成功していたと評価して大過ないと判断する。

②評価に対する教員の思い

1 1 「この授業の先生は、私語対策をしていますか」で、「よくしている」が41.7%、「ある程度している」が41.7%で、計83.4%であるのに、1 0 「この授業は、私語が多いですか」で、「かなり多い」が16.7%に上る。学生諸君の猛省を促したい。

③後期に向けての改善内容と方策

後期不開講

教員コメント

科目名 | 33006 | 生活の中の物理

①自己評価

習ったことがないから話が分からないという拒否反応がでることを出来るだけ押さえられるようにテーマ選びに気を配った。一つのテーマから次のテーマへ移行する場合も、つながりが途切れないようにしながら、その時間内にテーマの内容を理解してもらうために、1回の講義で話が完結するようにした。しかし、数学的知識が必要な場合は、その知識を準備しながら話を進めたが、数学と聞くだけで一切受け付けなくなる傾向は最後まで無くならなかった。これは大学における教育以前の問題であるように思える。

②評価に対する教員の思い

分かりやすく話すことを念頭に置いて話の流れを組み立てた。しかし、易しく話すことはできないので、聴く側の知識の有無によって、かなり難しいと感じたのかもしれない。数式を使わないで物理の話をするのであれば言うことはない。実は、数式を使わなければ話はもっと難しくなる。なぜなら、数式が物理を理解する最も適切な言語であるからである。実際によく理解した学生はごく少数に留まったが、彼らは話を聞くことが出来る状況にいたからである。大多数の物理の初歩の知識のない学生に、大学での物理教育で成功を収めることは無理である。もし可能なら、小中高における教育の何と無意味なことかということになる。

③後期に向けての改善内容と方策

「数学」に対する苦手意識対策が必要であるが、動画を取り入れた視覚化は理解を助けるので、次回はパワーポイントなどを利用した授業内容に変更する予定である。

2010年度

教員コメント

科目名 | 33012 | 競技スポーツ演習Ⅲ

①自己評価

受講生は、硬式野球部、剣道部、女子バスケット部、女子陸上部と元野球部員という構成であった。授業内容は、一流になるための心構えや考え方。トップアスリートとして活躍するための生活習慣の重要性など、今の自分のすぐに活かせる内容にした。全員少しは勉強になった、と思われる。勉強に対する意欲は男子より女子のほうが感じられた。書かせても女子のほうがしっかりと書けていた。「何事も継続は力なり」で、公式戦があるときを除いて、出席率はよかった。資料も毎回準備をして、受講生の理解の一助になったと思う。また、出席も一人ひとり呼名で行い、名前を覚えてコミュニケーションをとることを心がけた。

②評価に対する教員の思い

スポーツ学生を対象に授業を行ったことになるので、大きな声は慣れていて、「聞き取りやすい」と今までとは少し違う評価を得た。内容は少し難しかったかもしれない。授業で学んだことを参考にし、実践してほしい。

③後期に向けての改善内容と方策

前期のように、受講生の名前を覚えてコミュニケーションと取りながら授業を進行する。ノートをとったり、配布物に記入をさせたものを評価対象に少し加えて、平素の授業の意欲を駆り立てる。

教員コメント

科目名 | 33013 | 計量経済学

①自己評価

数学や統計学の知識が不十分なまま受講する学生も多いため、ほとんどの学生は、難易度が高い授業だと感じている。そこで、そうした部分に関する細かな説明をひとつひとつ行うよりも、グラフや図表を多用したスライドを用いることで大まかな理解をさせ、その後に行う実際のデータを利用した演習を通じてさらなる理解を促すというスタイルをとった。授業の説明に関してわかりやすいという回答が多いのは、こうした手法が効果を奏したものと思われる。統計解析機能をもつアプリケーションはいくつもあるが、演習では、学生にとって比較的なじみがあると思われるエクセルを利用している。とはいえ、ITスキルが不十分な学生にとっては、授業内容の理解に加え、アプリケーションの操作にも苦勞を強いられることとなる。このため、そうした知識・スキルが不十分な学生は、早い段階でリタイアする傾向がある一方、こうした方面に興味関心のある学生は、積極的に授業参加するという学生の授業に対する取り組み意欲に二分化が見られた。アンケート回答者は後者のタイプであり、履修者数に対するアンケート回答者数の比率と、出席・授業理解の努力・受講意欲といった項目に対する回答を考え併せると、そうしたことが如実に表れていることがわかる。もちろん、それら学生も前提となる知識やITスキルレベルは様々で、簡単な説明のみで足りる学生もいれば、横に付いて操作を補助する必要がある者もある。特にエクセルを利用した演習では、後者の指導に時間をかけると前者が退屈するという難しい授業運営を迫られた。講義には学習管理システムMoodleを取り入れた。課題内容の説明を行った後、それぞれのペースで、Moodle上に準備した課題に取り組んでもらい、学生の求めに応じて適宜、詳細な説明や操作補助を行うというスタイルをとった。特に授業についていけなくなると私語を始め、やがては脱落していくことが考えられたことから、課題に取り組む学生の間を巡回して細かく声をかけるよう心がけた。こうした面が「理解度を確認しながら授業を進めているか」「授業に対する熱意や意欲を感じられるか」といった質問に対する回答に表れたのではないか。私語を完全になくすことはできなかったが、満足していると全員が回答しており、概ね良好な結果が得られらと考える。

②評価に対する教員の思い

③後期に向けての改善内容と方策

前期開講科目であるため、後期に向けた改善・方策はないが、授業を運営していく上で感じた問題点と、改善の方向性・方策について述べる。ひとつは、早い段階で単位修得を諦めてしまう学生の存在である。特に計量経済学を学ぶ上で前提となる数学的・統計的知識が不十分な学生に、厳密な説明や理解を行うよりも、演習を通じて理解を深めてもらう意図で授業設計を行っているが、前提知識に加えIT関連の知識・スキルも不十分な学生が多く、早い段階で諦めてしまう。とはいえ、こうした前提となる部分に多くの時間を割くわけにもいかず、解決の方策がなかなか見つからないままであるが、少なくとも機器の操作に躓く学生に関しては、授業アシスタントを導入することでかなりの改善が見込まれるのではないだろうか。また授業参加者それぞれのレベルに合わせた授業運営を行う目的で学習管理システムを取り入れているが、インターネットを介して利用するレッスン用教材や小テストの作成、データの準備、講義に使用する提示用教材の作成には多大な時間と労力を要する。すべてを授業担当者ひとりでおこなっているため、教材の点検が疎かになることもあり、作成のミスから授業に影響がでることもあった。とはいえ、学習管理システムの導入があればこそ、各自のペースに合わせて理解を進めることが可能となり、結果的に満足度が高まったものと思われるため、こうしたスタイルで運営する授業に関しては、eラーニング教材の作成をサポートする者の存在が必要だと考える。

2010年度

教員コメント

科目名	33050	メディア概論
-----	-------	--------

①自己評価

難易度について「難しい」が計35・9%、「適当」が61・5%を示し、前年までに比べ「難しい」が増えた。留学生が増加したためと考えられるが、一方別の設問で「分かりやすい」が計84・6%、満足度の設問で「満足」が計97・1%を示しており、これらの相互関係をどう分析すべきか、考えている。

②評価に対する教員の思い

受講生にはひんばんに質問がないか、分かるかどうか、を問いかけるようにしており、今後もこのような取り組みを強めるとともに、受講生側からの積極的な質問や発言を期待したい。

③後期に向けての改善内容と方策

いずれにしても、日本人学生・留学生を問わず、あまり難しく感じさせないよう授業を工夫すべきは当然であり、難易度が「適正」の授業を目指す。また、私語対策も強めたい。

教員コメント

科目名	34010	経営学史
-----	-------	------

①自己評価

授業の難易度に関してですが、「かなり難しい」18.8%、「やや難しい」56.3%となっておりこれらを合わせると回答していただいた3/4の方が難しく感じておられたことに驚きを感じました。科目的に「経営学史」は経営学という学問の歴史、学問の成り立ちなどについて説明させていただいている関係で非常に抽象的レベルの高いものとなっております。ただ学問的に抽象的レベルが高いから説明も抽象的に行えばよいというものではないと認識しております。講義を準備する時点ではなるべく抽象的な内容を具体的事例に基づき説明してきたつもりでしたらまだまだ具体的にタイムリー内容を盛り込みながら説明しなければならないということを反省しました。現代につながるような幅広くビジネスに利用できるような考え方（思考）・思想（発想）を学んでもらえるような内容を今後でもできる限り取り入れながら説明できるように努力いたします。理論科目として一方で根本的・本質的な問題に触れながら、他方でタイムリーな問題、具体的な事例を入れながらも現代社会に生じている現象を捉えて最高学府としてのレベルを保ちながら、尚かつわかりやすく説明できるように努力いたします。抽象度が高い科目ではありますが反省しています。今後は説明の仕方によって感じ方は変わってくると思いますので大学の講義としてのレベルを保ちながら、理解していただけるように勉強します。「私語対策」に関しましては、「私語が多いですか」という質問に対し「かなり多い」10.0%、「やや多い」10.0%と約2割の学生さんが私語が多いと感じられているということは問題であると反省します。「この授業の先生は私語対策をしていますか」という質問に対して「よくしている」40.6%、「ある程度している」43.8%と約8割強の方が私語対策をしていると評価していただいておりますが、その割には「まったくしていない」と評価いただいている方が6.3%とおられます。この6.3%の方の不満（声）にできる限り今後は対応させていただきます。これは講義中の勉強に集中できる環境を作れていないということにもつながりますので、この点は十分に反省しさらに私語をする方に対しては注意していく所存です。気になる私語等がありましたら遠慮無く申し出てください。必ず対応いたします。

②評価に対する教員の思い

「説明の分かりやすさ」の質問に対して「かなり分かりやすい」75.0%、「やや分かりやすい」21.9%と両者をあわせると96.9%の方が分かりやすいと回答いただいておりますが、しかし一方で①自己評価のところで評価いただいたように授業の難易度に関してですが、お応えいただいた75.0%の方が内容的に「難しく感じておられたこと」と矛盾するのではないかと困惑いたしました。「難しい」内容をできる限り身近な問題と結びつけることによって内容に対する説明は理解していただけたのだということに認識いたしました。これまで以上に理解しやすい具体的な内容を取り入れながら講義を進めていきたいと思っております。「授業に対する熱意や意欲」では、「かなり感じられる」78.1%、「ある程度感じられる」18.8%という評価をいただいておりますが、1名の方は無回答となっております。この無回答の方に熱意が伝わるような講義ができなかったことを反省し、そのような点を踏まえてできる限り講義中に学生さんとの対話（コミュニケーション）をしながら講義に関心を、講義への熱意を伝えられるように精進します。

③後期に向けての改善内容と方策

理論科目ですが、やはり将来的に「まったく役に立たない科目」、「大学を卒業するためにただ単に単位を取るだけの科目」としての位置づけるのではなく、社会に出たときに役立つ基礎的思考を付けていただけるように講義に取り組んでいきたいと思っております。学問の世界を扱う科目ではありますが、そのビジネスや経営に対する思想・思考は昔も今も根本的には変化がないように考えます。もちろん100年前の社会と現代社会は状況が異なります。しかし社会で生きていくために必要となるビジネス思想、経営思考は受け継がれていると思っておりますので、温故知新ではありませんが、先学者達が学んで考えてきたプロセスを辿ることにより現代の社会を生き抜く力を養ってもらえるように講義内容を分かりやすく説明できるように前期でいただいた評価を再確認・再認識しながら後期の講義準備に取り組んでいきたいと思っております。毎年同じようなことを書いてしまうのですが、大切な時間を割いて、高い授業料を支払って受けていただいている講義ですから、学生さんにとり役に立つ内容を提供できるように努力し精進していきます。担当科目につきましては、責任をもって対応いたしますので説明を聞いても理解できないこと、私語があり聞き取れなかった等ということがあれば、遠慮なく申し出てください。もし「わからない」と感じられていることがあれば何度も何度も説明させていただきますので遠慮なく申し付け下さい。教員からの一方的な講義ではなく、教員と学生さんとの双方向型の講義・関係を心がけていきたいと思っております。

教員コメント

科目名 | 41008 | 環境経済学

①自己評価

有効回答者数が1項目を除いて14と、統計的にあまり意味がない気もするのですが、おおむね以下の傾向が読み取れるかと思えます。授業を理解するために、「ノートをとる」(71.4%)のは当然のこととして、それ以外はほとんどしていない。授業の難易度は難しい方(「かなり難しい」51.1%+「やや難しい」28.6%)だが、説明は分かりやすい方(「かなり分かりやすい」21.4%+「やや分かりやすい」71.4%)で、学生の理解度を確認しながら授業を進めている方(「かなり進めている」14.3%+「ある程度進めている」71.4%)で、授業に対する熱意や意欲は感じられる方(「かなり感じられる」35.7%+「ある程度感じられる」57.1%)である。私語は少ない方(「あまり多くない」35.7%+「少ない」28.6%)で、私語対策はしている方(「よくしている」7.1%+「ある程度している」64.3%)である。

②評価に対する教員の思い

テキストは、著者の一人が東京工業大学、上智大学等で教えていた講義ノートに基づくもので、難しいと感じるのは無理からぬものがあります。にも関わらず、授業は総合的に見て「かなり満足している」15.4%、「やや満足している」61.5%で、この項目についての無記入・記入ミスが3名いるものの、「まったく満足していない」とする学生が一人もいないというのは、まずまずの授業であったかと思えます。授業改善を積み重ねてきたことありますが、今年度は受講生にも恵まれ、2006年度に開講して以来、最高の授業が出来たと自負しております。

③後期に向けての改善内容と方策

後期と言うより来年度に向けてですが、私語対策のため、教室の前の方に座るよう、座席指定を検討したいと思います。ただ、受講生数に比べて教室が大き過ぎることから、プロジェクターが使用可能な中規模の教室を整備するよう大学当局に求めていきたいと思えます。

教員コメント

科目名 | 42001 | 地球科学

①自己評価

本講義「地球科学」の履修登録者85名のうち、出席率50%以上が9割弱、75%以上が7割弱であった。アンケート回答者37名は履修登録者の4割強であり、アンケート結果には、出席率のよい学生の意見が強く反映されている。本講義では、「地球の歴史」をテーマとして、46億年前以降、地球上で生じた大規模な自然現象を取り上げた。その際、映像や図表を用いて視覚的に理解できるように心がけたが、自然現象のメカニズムを理解する際に物理学の知識が求められる場合もあり、「(問5)授業の難易度が高い」48%と、約半数が講義内容を難解に感じていた。ただし、「(問6)説明がわかりやすい」89%との評価もあり、難解であるものの、ある程度理解できた可能性はある。「(問10)私語が多い」と感じた受講生が59%もいるように、毎回の授業で私語が絶えることはなかった。静かな環境を用意できなかったことが大きな問題として残る。

②評価に対する教員の思い

「(問3)受講意欲がかなりある」学生が95%と大半を占め、私語問題を除くと、受講生の積極的な受講態度によって授業しやすい環境を提供してもらえた。「(問8)学生の理解度を確認しながら授業を進めている」70%との回答であったが、どうしても講義内容を「伝える」ことに専念してしまい、自己評価としては理解度確認が不十分であったと反省している。この点は他の講義科目「地球と環境」と同様である。もう少し講義内容を整理し、時間的余裕をもって講義を進めていく必要があると考える。出席率が75%以上の受講生が7割弱おり、極めて出席状況がよい結果となったが、その中には大規模な遅刻者も含まれていることから手放しで喜べる結果ともいえない。講義の冒頭から参加したくなるような授業内容にしていく必要があるだろう。また、「私語が多い」との指摘は十分に理解できるものであり、その対策を考えていかなければならない。

③後期に向けての改善内容と方策

「(問12)授業に満足している」学生が89%を占めており、配布資料やビデオ教材を取り入れた講義形態については大きな問題はないと考えている。ただし、回答者の約半数が「(問5)授業の難易度が高い」と感じたことから、講義内容の選択や伝え方には工夫が必要と判断する。物理学や化学の知識を利用するにせよ、その考え方を直感的に理解できるような例示を工夫する必要があるだろう。また、受講生の理解度確認のため、授業時間内に学生の意見を引き出す仕掛けを用意することも考えていきたい。私語対策としても、私語を禁ずるよう伝えるだけでなく、学生を授業に引き込み、必然的に私語が減っていくような授業展開の方法を考えていく必要がある。

教員コメント

科目名 | 42006 | 法学入門

①自己評価

回答者のうち約3分の2はコンスタントに出席している。授業中には比較的熱心に聞く学生が多い。留学生が多いのであるが授業に対する熱意が伺われる。このことはおのずと授業の理解につながるものであり、アンケートの受講意欲、授業のわかりやすさや聞き取りやすさに対する積極的回答（約7、8割）として反映されている。ただし授業における説明がややわかりにくいとする学生が3割いるので、理解度の分布が2極化していることがわかる。私語をする者がやや多いと回答する学生が約半数いるが、実際は比較的静かである。教師の話に熱心に聞き取ろうとするとささいな私語でも気になることがあり、この数字はこうした厳粛な気持ちで授業を聞こうとする学生の多いことによるものと考えられる。

②評価に対する教員の思い

アンケートは全体的に積極的評価である。授業を理解するためには、基本的に予習と復習はもちろんのこと、授業中は教師の話をしっかりと聞いてノートを取るべきである。授業がわかりにくいとする学生が3割いることは、回答の全体的な数値からすると勉学に対する努力が必要であると思われる。

③後期に向けての改善内容と方策

講義の理解を促進し復習の役に立つようにレジュメを使用しており、学生にはわかりやすい授業になると考えている。実際の数字が必ずしもそうではないので、メリハリを付けた説明になるよう努力したい。法律の入門科目であるから、法律の実際の運用である判例の紹介は不可欠であり、これをもう少し増やすのも一つの方法であると考えている。

教員コメント

科目名	42015	ITリテラシー I
-----	-------	-----------

①自己評価

有効回答者数が7と、統計的にあまり意味がない気もするのですが、おおむね以下の傾向が読み取れるかと思います。授業を理解するために、「先生に質問をする」(71.4%)以外はほとんどしていません。授業の難易度についての評価は分かれており、説明は分かりやすい方(「かなり分かりやすい」28.6%+「やや分かりやすい」42.9%)で、学生の理解度を確認しながら授業を進めている方(「かなり進めている」42.9%+「ある程度進めている」28.6%)で、授業に対する熱意や意欲は感じられる方(「かなり感じられる」28.6%+「ある程度感じられる」42.9%)である。私語は多い方(「かなり多い」28.6%+「やや多い」28.6%)だが、私語対策はしている方(「よくしている」28.6%+「ある程度している」28.6%)である。

②評価に対する教員の思い

出席してアンケートに答えてくれた学生には、「かなり満足している」28.6%+「やや満足している」42.9%と、総合的に見ておおむね満足のいくものであったかと思います。授業の難易度についての評価は「かなり難しい」から「やや易しい」までほぼ満遍なく散らばっていますが、説明の仕方等はともあれ、授業内容そのものは全クラス統一であり、私の裁量を超えていることを理解していただきたいと思います。「ITリテラシー」は必修科目であり、私はその再履修クラスを担当したわけですが、履修者数が27名であるのに対象者数が7名にしか過ぎないことから、出席せずアンケートにも答えなかった学生をより一層引き付ける工夫が求められているものと受け止めます。

③後期に向けての改善内容と方策

前述したように、この授業は必修科目であり、しかも私は再履修クラスを担当しています。後期には「ITリテラシーⅡ」を担当しますが、昨年度までに少なくとも一度「ITリテラシーⅡ」を落とした上で、なおかつ今年度前期の「ITリテラシーⅡ」の再履修クラスをも落とした学生が受講する授業であり、より一層の工夫が求められています。実際問題として授業にさえ出席してもらえれば、何とかこなせるはずの授業です。よって、遅刻・欠席がないよう、アドバイザーと頻りに連絡を取ることを心掛けていきます。

教員コメント

科目名	42017	リスクマネジメント
-----	-------	-----------

①自己評価

リスクマネジメントでは、私たちがリスクに囲まれて社会生活を営んでいる現実を認識し、リスクをマネジメントするプロセス、リスクをコントロールする手法を学習した上で、伝統的なリスク移転の手法である保険、代替的なリスク移転の手法であるデリバティブについて理解してもらうこと、また、個人で対処できない社会的リスクに目を向けて、具体的には社会保障への理解を深めることを目標とした。授業のやり方としては、受講者が少人数であったので、問いかけと回答により対話的に進める時間と、板書を中心とした講義形式で進める時間と、必修課題のプリントの解答作成により進める時間と、一定時間の話を聞いて取ったメモを基にした要約作成により進める時間などで構成した。この科目は、ビジネス学部で新設し私が担当して今年度で3回目となり、いくらかは適切なトピックを用意できるようになったが、アンケート結果を全体的に見て、より具体的なトピック、学生の身近なトピックを用意する必要があると考えている。

②評価に対する教員の思い

アンケート(10)「私語が多いか」に対し、「あまり多くない」「少ない」という回答が85%あり、アンケート(11)「私語対策をしているか」に対し、「よくしている」「ある程度している」という回答が80%であった。授業のやり方としては、受講者が少人数であったので、問いかけと回答により対話的に進めたこと、毎回到必須課題の提出を義務化したことなどが、功を奏したものと考えている。

③後期に向けての改善内容と方策

アンケート(5)「授業の難易度は適当か」に対し、「かなり難しい」「やや難しい」への回答が大半を占めている点は、今後の検討事項である。「難しさ」には、さまざまな要因があると思われるが、より納得のいく説明を工夫する、授業中の復習の要素を多くする、学生の興味を引く具体的なトピックを用意するなど、いずれにしても、何らかの対策が必要であると思っている。どうしても、問題を一般化・抽象化して講義を進める傾向が私にはあり、その方が、学習内容の提供量としては効率が良いのだが、学生の理解量とのバランスが問題となる。私の力量を超えるのだが、ケーススタディ形式の授業を組み込めるならば、望ましいと考えている。

教員コメント

科目名	42050	ビジネス情報入門
-----	-------	----------

①自己評価

本年度から留学生の受講者が半数以上になり、出席率も高く、その結果他の受講生にも好い刺激を与えるようになった。具体的には私語も無く、熱心に受講しこちらからの質問に対して的確な回答が多くなった(授業意欲90%)。学生の熱心な態度は教師にとっても意識する、しないにかかわらず、より一層学生に満足できる授業を心がけようとする結果を生み出すものである(教師の授業に対する熱意・意欲度89.3%)。アンケート結果によれば、学生は教師が授業にある程度の準備と授業に対する熱意を感じており、ある程度好意的な評価を与えている。また授業に対する満足度も93.6%近くに向上している。しかしながら、授業に対する難易度は93.5%であり、その背景を十分考察する必要がある。今後はこの点に更なる工夫をして授業に望みたい。

②評価に対する教員の思い

留学生の受講生が半数以上を占めており、授業の中で時々日本の文化や話題を取り上げる工夫をしている。また教材をより深く理解してもらうためにも、新聞の切抜きや話題性のある記事を取り上げ、順番に音読させるようにしている。授業の理解度を確認するために、毎回授業のはじめに前回の復習をしているが、理解度の高い学生にはかえって煩わしく感じているようであり、また理解度の低い学生はもともと前回の授業が理解できていないため、ますますフラストレーションに陥って授業の満足度が低下することになってしまう。いずれにしても不満の要因になりかねない。満足度が低いのは色々な原因が考えられるが、内容が難しいとの回答がかなりある。今後は個別対応を考える必要がある。その他の対応としてはパワーポイントやビデオなど視聴覚教材の活用も考えて行きたい。

③後期に向けての改善内容と方策

②で詳しく説明したように、3点に絞って改善を図っていききたい。毎回の授業で前回の復習問題を出し、学生の理解度を深めた上で、次の授業に進む。授業選択の動機として、この授業に興味と関心が高かったのも、さらに話題性の富んだ内容も盛り込んで行きたい。今回のアンケートを通じて最重点項目は、学生にとって授業満足度を高めることであり、そのためには、学生に安易に妥協することなく、授業の内容については理解度を高める工夫をさらに務めるよう心がけたい。学生のレベルに応じて難易度が異なり、一律に演習テーマを与えることは避けた上で対応していききたい。以上の3点を「より充実した授業のために」学生との間で約束して、アンケートの結果を反映していききたい。

2010年度

教員コメント

科目名 | 43001 | 日本語コミュニケーションⅡ

①自己評価

＜受講意欲＞では「かなり意欲がある」と「ある程度（原文：まあまあ）意欲がある」で75.0%ということであり、＜総合的満足＞が「かなり満足している」と「ある程度（原文：やや）満足している」で83.3%ということであり、一定の評価が与えられたものと考えている。ただ、＜難易度＞で「かなり難しい」16.7%、「やや難しい」25.0%という点は意外であった。また、＜私語＞で「かなり多い」25.0%、「やや多い」50.0%という点は反省材料であり、＜私語対策＞で「よくしている」と「ある程度している」で58.4%ということなので今後も対策を検討していきたい。

②評価に対する教員の思い

特に無し

③後期に向けての改善内容と方策

＜難易度＞については、毎回の漢字テストの難易度が高いことが要因と思われる。本科目の主旨として、特に大学の専門課程で頻繁に使用される漢字に予め慣れておくということがあり、今後はその主旨をより理解してもらえるように授業内で説明したいと考えている。＜私語対策＞については、今後とも有効な方策を検討していきたい。

2010年度

教員コメント

科目名 | 43003 | 英語コミュニケーション I

①自己評価

留学生を対象にした英語コミュニケーションの授業を担当するのは今年で2年目になります。日本人学生を相手にするのは違いどのように授業を進めていけばよいのか、今でも試行錯誤で行っています。アンケートの結果を見る限りではますます高い評価になっていますが、本当はどう思っているのか、話し合う時間を持ちたいと思います。

②評価に対する教員の思い

この授業の難易度については、易し過ぎるのもっと難しい内容を教えてほしいと書いている人もいれば、今の授業は難し過ぎてよく分からないと書いている人もいました。最初の授業でも言いましたが、この授業は英語の基礎を身につけることを目標にしていますので、易しいと思う人はテキストの英文を全部覚えるようにするか、その他TOEIC関連の授業を同時に履修するか自ら工夫してください。逆に難しいと思う人は一つ一つ確実に理解していくよう復習をしっかりとってください。

③後期に向けての改善内容と方策

今回のアンケートの回答にも記されていますが、この授業は私語が多くて困っています。いろいろと対策をとりましたがしばらくは効果があってもすぐに元に戻ってしまいます。後期は座席を指定する等の対策を講じ、まじめに授業を受けようとする学生の迷惑にならないようしていきたいと思っています。

教員コメント

科目名	43005	インターネット英語 I
-----	-------	-------------

①自己評価

全体的なアンケート結果としては大体予想通りであったと思うが、かなり難しい、やや難しいという声が半数強を占めていたのは反省すべき点かもしれない。基礎学力を重視した教材として作られて英語の電子メールの文例のみならず、インターネット英語という科目名である以上、実際にインターネット上で流れている、鳩山と小沢のダブル辞任について書いた英字新聞の一部を前期終盤の数回の授業ではあるが取り上げたことがやや大きく響いているものと思われる。そして例年この授業はなぜか受講者数が多いので、それ分私語も多いことも覚悟はしてはいたが、特に今年度は困ったことに予想を超えて例年になく私語が多かったことは大きな問題だと思う。

②評価に対する教員の思い

当たり前のことではあるが、配布したプリント教材により授業を進めている以上、受講生は毎時間それを忘れずに持参し受講してもらいたいものである。

③後期に向けての改善内容と方策

本学の学生の英語力、学習意欲の二極化、そして全体としての低下はかなり深刻化しているように感じた。一部の留学生と一部の情報学部生は前列で熱心に受講しているのに対し、ビジネス学部の中の相当数の学生についてはどうしようもないという日も少なくなかった。①でも述べたように、比較的易しいと思われる英文で内容も連日のニュースで誰もが知っているようなポピュラーなものを扱ったインターネット上の英字新聞のごく一部を抜粋し取り上げてみたが、やはり彼らの多くの実際の英語力からはかけ離れていたのかもしれない、またそれがかなり難しい、やや難しいという声や私語の多さの一因となっていたとすれば、それは反省すべき点かもしれない。しかしあまり易しいことばかりやっていると世間並みの英語力には程遠いレベルで終わってしまうだろうし、またそれでは困るので、後期もそういったものを多少は交えて授業を進めていくつもりであり、それが彼らのためにもなっていくはずである。確かに多くの学生がかなり難しい、やや難しいと答えているとは言え、現にそれとほぼ同数の学生が、私の説明は分かりやすいと答えてくれているのも事実であるから、後期も基本的にはこの方針で進めていくつもりである。私語対策についてはなかなか案なしといったところである。確かにこれまでは出席率が悪くなければ、不合格とするケースは比較的少なかったし、試験問題についても前もってかなりヒントを与えていたことが、学生を安易な気持ちにさせていた面もあったかもしれない。従って少しでもまじめに受講させるためには成績評価をこれまで以上に厳格に行なっていくことがまず第一歩ではないかと思う。

教員コメント

科目名	43050	UNIX入門
-----	-------	--------

①自己評価

講義の内容および運営に関するアンケート項目(項目3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 11, 12)については、平均点が軒並み高く素直に評価してよいのか悩む。とはいえ、次年度も現状維持できるよう努めたい。私語対策(項目10, 11)については、学生自身もかなり多いと感じているものの、私語対策を施しているという評価をしているため、当初の目論見どおり成功したと考えてよいだろう。当該講義では、出席態度(平常点)の代わりとして、妨害行為に対する減点法を導入したことで効果が得られたと理解している。一方、学生から、「口頭で注意しているものの、(注意の仕方が)ゆるい」との意見を得ていることから、妨害行為に対して厳しく取り締まってもよいのだろう。今後、検討したい。

②評価に対する教員の思い

自由記述にて、「この先生の授業も受けたくない」という意見があった。大学の講義なので、想定内と考えている(むしろ、こういう意見が多いと思っていたので、アンケート結果の数値自体に疑問に感じている)。とても残念な意見だが、誰もが受講したくなる講義になるようあらゆる観点から改善したい。また、自由記述にて「講義資料の演習問題の答えとかあれば勉強しやすい、資料だけじゃ答えがわからない。」という意見があった。一応、反論するならば、「学生なんだから、答えがほしかったらまず演習問題を解くこと。そして、教員室に訪問して答えを得るべき」だと私自身は思っている。とはいえ、1年次生配当の専門科目であることを考慮して、5割は解答例を配布してもよいのだろう。今後の課題としたい。

③後期に向けての改善内容と方策

1年次生配当の専門科目という状況を考慮して、演習問題の解答例を配布するなど、学生へのサービスにより重点を置く必要があるのだろうと感じた。サービスの提供を通じて、専門科目の習熟度を上げていきたい。

教員コメント

科目名 | 44002 | ITリテラシー I

①自己評価

<受講意欲>では「かなり意欲がある」と「ある程度（原文：まあまあ）」が95.5%ということであり、<総合的満足>が「かなり満足している」と「ある程度（原文：やや）満足している」とで100%ということであり、一定の評価が与えられたものと考えている。ただ、<難易度>で「かなり難しい」13.6%、「やや難しい」50.0%という点は意外であった（「適当である」が36.4%）。また、<私語>で「やや多い」42.9%とともに「あまり多くない」33.3%、「少ない」14.3%と評価は割れているが「やや多い」という声は反省材料であり、<私語対策>で「よくしている」と「ある程度している」で77.2%ということであるが今後も対策を検討していきたい。

②評価に対する教員の思い

特に無し

③後期に向けての改善内容と方策

<難易度>については、習熟度別クラスの上級クラスということであり、授業内での課題の出来映え等からも妥当な水準かと認識していたが、後期のITリテラシーⅡに向けて難易度を再検討したいと考えている。<私語対策>については、今後とも有効な方策を検討していきたい。

2010年度

教員コメント

科目名 | 44003 | 英語コミュニケーション I

①自己評価

全体的なアンケート結果として大体予想通りという感じであり、項目の多くについてはプラスに近い評価であったように思われるが、英語の基礎的な文法事項をほぼ1からスタートし進めていくような内容にも関わらず、半数を超える学生がかなり難しい、やや難しいと答えているのは大きな問題だと思った。そして私語の問題も例年よりも深刻化しているのがとても心配な点であった。

②評価に対する教員の思い

全く基本的なことではあるが、受講生は毎時間テキストを忘れずに持参してきてほしい。

③後期に向けての改善内容と方策

ここ最近の本学の学生の英語力の二極化あるいは全体としての低下、そしてそれによる学習意欲の低下、受講態度の悪化、特に今年度の私語の多さには大きな懸念を覚えずにはいられないと感じた。火曜のクラスでは1限目ということもあり、スタートでの集まりも悪い一方、木曜4限目のクラスはさすがに遅刻者もめったになく出席率もいいが、学生間の学力差が顕著で対応が難しく、ずば抜けて点数の高い学生もいれば、毎時間きめ細かく板書や説明をしているにも関わらず全くお手上げで、再試験でやっと合格という学生もいた。こうした多様な学生が同じクラスの中に存在することは確かに問題であり、学生に対する教員自身のより厳格な対応がますます必要になっていることはもちろんであるが、他方なるべく個々の学力に応じた形に近い授業を提供することも求められているような気がする。またそうした対応が私語の減少にも多少はつながっていけばと思う。後期はもう無理なので来年度以降の事になってしまうが、学力に応じた新たなクラス分けの必要性も無視できないところまで来ているのかもしれない。

2010年度

教員コメント

科目名	44051	ジャーナリズム論
-----	-------	----------

①自己評価

「難しい」が計63・7%を示し、別の設問では「わかりやすい」が計91・3%を示した。双方を合わせると「難しいが分かりやすい」と矛盾とも取れる内容になっており、どう理解すべきか考えている。自己評価としては「難しい」の回答が合計で半数以上あることを厳しく受け止めている。

②評価に対する教員の思い

授業中の理解度確認を十分に行うようするが、受講生も難しく感じたら積極的に質問するよう期待する。

③後期に向けての改善内容と方策

どこが難しいのか分析し、改善を進める。

2010年度

教員コメント

科目名	51063	色彩演習
-----	-------	------

①自己評価

(12) の満足度は概ね受講生が満足とのことである。金曜日の1時間目ということで遅刻者が多くあり、理論説明を聞き逃した受講生が多々、目に付いた。そのため、グループラーニングが機能しなかったことで、授業到達目標に達しなかった受講生があり、グループ討議が私語と雑談になった。シラバス説明も聞き逃した受講生も多く、今後、改善が必要である。

②評価に対する教員の思い

グループラーニングの活性化が不十分であったため、授業の到達目標に達しなかった受講生があり、今後出来る限り、受講生とのコミュニケーションを取りたい。授業の前半に理論説明があるため、遅刻しないように気をつけてほしい。

③後期に向けての改善内容と方策

グループ学習の構築。インタラクティブな授業形態と学習環境を目指し、受講生のポテンシャルを引き出す。積極的に受講生と会話をしながら進める。

教員コメント

科目名 | 51066 | オブジェクト指向言語

①自己評価

本講義が実際のゲーム作成という学生が興味のある分野のプログラム作成を主に進めた事によってアンケート結果から80%の学生が意欲を持ち授業に取り組んだことが分かる。講義内容についてはかなり難しい・やや難しいと回答した学生が66%であり内容としては少し高度なものであったが、講義はわかりやすかったとアンケートで回答した学生が100%となり、難しいと感じつつも講義内容については理解したといえる。これにより難しい課題でも自分自身の力でプログラムを作成できたことによる何らかの達成感を得たと考えられる。また、授業環境においては私語が多い・やや多いとアンケートで回答した学生が77%おり講義中の私語の多さを感じ学生が多く見られるが、私語対策をよくしている・ある程度しているとアンケートで回答した学生が88%だった点から授業環境は良かったといえるがより一層の勉学のしやすい授業環境を目指したい。

②評価に対する教員の思い

③後期に向けての改善内容と方策

オブジェクト指向の考え方はこれからのプログラミングにおいて必須である。本講義ではオブジェクト指向の概念をプログラミングで学ぶのではなく、最初にパワーポイントで共同作業を行う事により学んだ事でプログラミングを開始した時点でオブジェクト指向の開発には違和感なく入る事ができた。また、アンケート結果からも理解度が高いので来年度以降も同じような手法で講義を進めていく。また、少人数での講義のため1つの課題に多くの説明を学生一人一人にでき、これも理解度を高めた原因であると考えられる。しかし、少人数での講義だったため私語が目立ったというアンケート結果もあった。私語対策についてはアンケート結果から評価されているが、私語が多くなる前に対策が行えるように努めて行く。

2010年度

教員コメント

科目名	53005	公民科教育法 I
-----	-------	----------

①自己評価

全体的には良い評価ではないか。

②評価に対する教員の思い

基本的にはこの方針で進めるべきと思った。受講生諸君が教職への希望を一層強くもてるようにしたい。

③後期に向けての改善内容と方策

10のイ) やや多い私語は、後期は興味深い授業内容の工夫でなくしたい。ただ1人5のア) のかなり難しいと6のウ) のややわかりにくい12のエ) 全く満足していないに連動していると思われるので、後期受講者にその1人がもしいることが確認できれば、課題等で補い、理解ひいては満足度が上がるようにしたい。

教員コメント

科目名 | 53051 | 文書作成演習

①自己評価

授業アンケートによると、授業の難易度をやや難しいと感じている受講生が5割を超えている。しかし、一方で授業の説明および授業の満足度については比較的高い評価を得ており、全体としては授業の進め方は概ね適切であったと考えている。ただ、4割を超える受講生が授業に対してあまり意欲がないと回答していることに対しては、意欲を持ってもらえるような授業にさらに改善する必要があると思う。また、実習科目なのでわからないことを教えあうなどのある程度の私語は認めている状況ではあるが、半数以上の学生が私語はかなり多いあるいはやや多いと感じている点についてはもう少し、厳しく私語対策をしたほうが良いと思われる。

②評価に対する教員の思い

授業を理解するための工夫として、3/4の受講生が何もしていないと回答している点について、わからないことがあった場合は、それを放置しないで理解できるまでその都度質問してほしいと思う。実習科目なので欠席すると次の授業の理解が出来にくくなるので出来るだけ欠席しないで積極的に授業に取り組んでほしい。また、やむをえず欠席した際の授業内容を自習しておくことや、授業で出された課題の作成を積極的に行ってほしい。

③後期に向けての改善内容と方策

受講生が授業の内容を難しく感じないように、また、授業に意欲を持ってもらえるように、よりわかりやすい説明と例題及び課題の選び方にも工夫をしていきたい。また、重要な部分は、繰り返し説明を行うだけでなく、課題の中にも何度も取り入れるようにして理解を深めてもらうようにする。さらに、課題作成の時間を充分に取り、その際受講生からの質問を受け付けるだけでなく、TAとも連携して、理解が不十分な学生を積極的にサポートしていけるようにする。私語に対しては、授業に関係のない話題については厳しく注意していきたいと考えている。

教員コメント

科目名	54001	植物の自然誌
-----	-------	--------

①自己評価

専門外の教養科目であることを考え、興味をかきたて、新しい発見があるように工夫しています。授業の難易度は、適当であるからやや難しいという回答ですが、教員による説明、準備、熱意等については、学生からみて大きな問題はないように思えます。一方、授業中の私語については、多いかどうか、教員の私語対策があるかどうかについては、評価が分かれています。実際の観察を行っているので、場面によってさまざま、評価が分かれるところかもしれません。

②評価に対する教員の思い

毎回多くの資料を用意していますが、その資料を大切にしたいと思っています。実際の植物の観察は、内容の理解を助けるだけでなく、観察を丁寧に行うことが、力を養うことに役立っていると考えています。授業中に質問をすることは、授業の内容を高め、その場にいるみんなへの助けにもなりますので、遠慮なく積極的に行ってください。

③後期に向けての改善内容と方策

資料の内容をさらに高めていくことと、授業中の発言が活発になるように工夫していくことを次の目標にします。それは私語への対策にもなるはずです。

教員コメント

科目名 | 54002 | 経営情報論

①自己評価

毎回、テーマごとにプリントや本のコピーを配布し、学生にそれを読ませて重要な箇所について指摘し、問題提起をして話し合いながら授業を進めた。読むという作業によって一定の緊張感を持たせることができるため、退屈にしている学生は少なかったように思う。ただ、自分の考えを述べることに対しては皆、一様に消極的であり活発な意見交換をするまでには至らなかった。また、授業の最初から寝ている学生が数名程度（運動部の学生）おり、彼らをいかに動機づけるかという点では良い解決法は見つからなかった。しかし、全体としてはアンケート結果にもあるように「授業に対して意欲的に取り組んだ」、「授業に対して総合的に満足した」という学生が大半であることから今年度の授業方法は一定の成果を上げたと考えている。

②評価に対する教員の思い

授業の難易度として「やや難しい」と回答した学生が4割程度いるが、教員の説明の分かりやすさを問う項目では、ほとんどの学生が「かなり分かりやすい」、「やや分かりやすい」と答えていることから授業の難易度について学生に大きな不満はなかったのではないかと考えている。いずれにしても、大学の講義は知的好奇心を刺激するものでなければならない。学生には常に考える余地を与えて思考を促進することが必要である。一から十まで説明して平易な講義をすることが必ずしもよいことだとは思わない。したがって、わからないところを考えることに意味があるということをしっかり理解して授業に臨んで欲しい。

③後期に向けての改善内容と方策

本年度の授業形式が一定の成果を上げたものの、課題がないわけではない。問題点は主として2つある。1つは、出席することだけを目的として授業内容に関心を示さない学生をどのように動機づけるかという点であり、2つ目は単に単位を取得するための学習ではなく社会に出てからも役に立つよう知識の定着をいかに図るかという点である。これらに対しては、例えば視覚的にうったえる教材を工夫して使用し、擬似体験的に学習することで学生の関心を高め、理解度や知識の定着度を向上させることができるかもしれない。また、毎回の授業内容をフォローするような課題を課すといった方策によっても同様の効果が得られると考える。ただし、課題の提出は学生にとっては負担となるため意図どおりに実施できるかどうかは疑問である。いずれにしても、上記のような課題については試行錯誤を繰り返しながら解決策を探っていくことが必要である。

2010年度

教員コメント

科目名	54004	産業組織論
-----	-------	-------

①自己評価

アンケートへの回答者が少数であり、より意欲的な諸君であると考えられるが、理解度を高める努力が認められているようである。とはいえ、「難易度は適当ですか」、「説明は分かりやすいですか」という項目での評価は十分でない。

②評価に対する教員の思い

シラバスについては、開講時により具体的に講義日程に関する資料を配布しており、「あまり役立たなかった」という回答はそのためと考えられる。私語については、同じクラブの諸君同士の私語が多く、対策は困難である。

③後期に向けての改善内容と方策

後期の担当はありません。